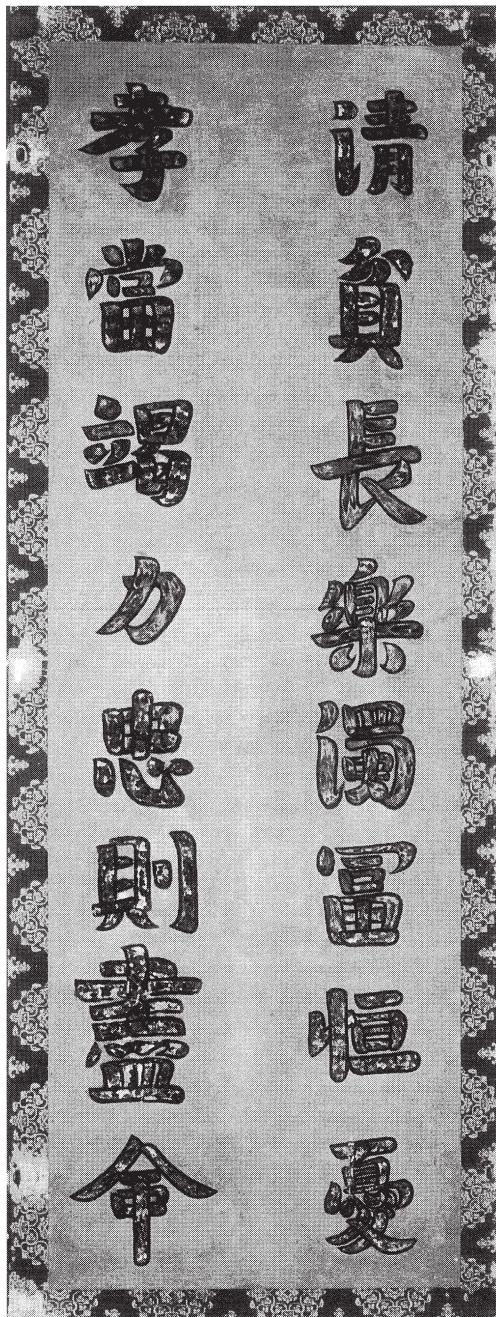


奈良
国立博物館
だより

平成13年10・11・12月



特別展

第53回正倉院展

東・西新館

10月27日(土)～11月12日(月)

特別陳列

岡寺の歴史と美術

東新館 9月18日(火)～10月8日(月・祝)

生誕800年記念 特別陳列

西大寺 興正菩薩叢尊 1201－90

——民衆を救った生き仏——

東新館 12月1日(土)～12月24日(月・振休)

特集展示

大仏殿様の四天王像／地蔵菩薩とその周辺

本館～12月2日(日)

善円と快成／動物たちの彫像

本館 12月4日(火)～12月24日(月・振休)

平常展

仏教美術の名品

本館～12月24日(月・振休)

西新館～10月8日(月・祝)、

11月28日(水)～12月24日(月・振休)

年末年始の休館：12月25日(火)～1月3日(水)

〔写真解説〕

正倉院宝物 鳥毛帖成文書屏風

この屏風は天平勝宝8歳(756)6月21日に施入された屏風百疊中の一つで、もとは聖武天皇の遺愛の品であった。各扇に君主の名鑑とすべき座右銘を楷書で八字二行に表し、文字には鳥の毛を貼り、輪郭を黒みを帯びた鳥毛でくくっている。鳥毛は日本産のキジや山鳥の羽毛、肩の羽などが用いられている。今回出陳の第五扇には「清貧長樂 濁富恒憂 孝當竭力 忠則盡命」と見える。

特別展

第53回正倉院展

東・西新館 10月27日(土)～11月12日(月)

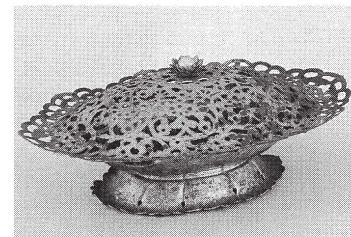
毎年恒例の正倉院展が、本年も当館で開かれています。出陳宝物は屏風や花氈などの調度品、佩飾品の刀子、筆や墨などの文房具、乞巧糞で用いた用具、文書、染織品、仏具、献物几・献物箱、聖語藏の経巻類に分類することができます。

このうち、調度品には鳥毛帖成文書屏風、紫檀木画挾軒、平螺鈿八角鏡など聖武天皇の遺愛品が出陳されます。乞巧糞は七夕祭のことでの女性たちが針仕事の上達を祈るために用いた針や糸などを見ることができます。文書には東大寺封戸处分勅書をはじめ東大寺に関する記録類が多く含まれ、ほかに正税帳、戸籍など奈良時代の生活を知る貴重な文書が多数展示されます。仏具には金銅八曲長坏のような東西交渉の歴史を物語る品や、斑犀如意、金銅花形合子などがあり、献物几・献物箱には白檀の美しさを活かした白檀八角箱が注目されます。

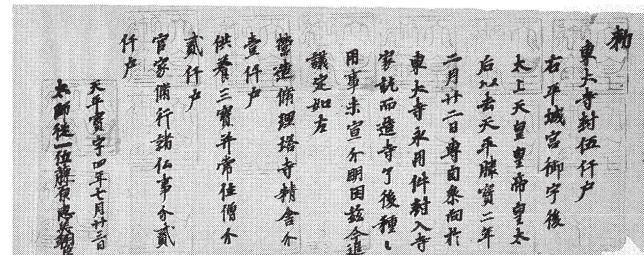
本年も多彩な内容の正倉院宝物の数々が展観されます。秋のひとときを、是非、第53回正倉院展でお過ごしください。



蘇芳地金銀絵箱(正倉院)



金銅花形合子(正倉院)



東大寺封戸处分勅書(正倉院)



特別陳列

岡寺の歴史と美術

東新館 9月18日(火)～10月8日(月・祝)

奈良県明日香村に位置する岡寺(龍蓋寺)は天智天皇の勅願にて創建されたと伝えられる古刹です。この特別陳列では同寺に伝來した数々の寺宝を一堂に展観し、また近年、五百数十年の時を経て再建された三重塔にこのほど設置される壁画もあわせて披露します。

【出陳品】35件(うち国宝1件、重要文化財6件)

生誕800年記念 特別陳列

西大寺 興正菩薩叡尊 1201-90 ～民衆を救った生き仏～

東新館 12月1日(土)～12月24日(月・振休)

興正菩薩叡尊(1201-90)は鎌倉時代の高僧で、西大寺中興の祖として知られています。釈迦・舍利・文殊などに深い信仰をもっていた叡尊は、授戒を中心とした宗教活動で多くの信者を獲得し、生涯におよそ700もの寺院の創建ないし修復を成し遂げました。また最下層の人々の救済に尽力し、朝廷や幕府からの深い帰依を受けて、蒙古襲来を防ぐ祈祷など国土安泰の修法もおこないました。近年、叡尊に対しては、歴史・思想・美術・福祉などさまざまな方面から強い関心が集まっています。叡尊の生誕800年に当たる今年、叡尊の肖像・筆跡・伝記、叡尊が直接制作に関わった仏像・仏画・工芸品などを一堂に集め、叡尊の魅力に迫ります。

【出陳品】31件(うち国宝2件、重要文化財14件)

◎菩薩半跏思惟像(岡寺)



◎叡尊像(西大寺)

特集展示

大仏殿様の四天王像／地蔵菩薩とその周辺

本館 ～12月2日(日)

善円と快成／動物たちの彫像

本館 12月4日(火)～12月24日(月・振休)

本館12・13室では、彫刻の多様な魅力を紹介するため、テーマ特集の展示を行っています。

平常展

仏教美術の名品

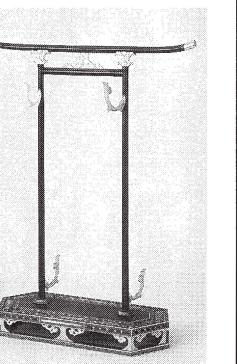
本館 ～12月24日(月・振休)

西新館 ～10月8日(月・祝)、11月28日(水)～12月24日(月・振休)

本館では、飛鳥時代から鎌倉時代に至る仏像を中心とした日本彫刻、及びその源流ともいべきガンダーラや中国などの諸作品を幅広く紹介しています。西新館では、仏教美術の名品を絵画・書跡・工芸・考古のジャンル別に展示しています。多数の国宝・重要文化財を含む名品が含まれており、隨時展示替えも行なっています。

特別展「第53回正倉院展」 東・西新館

鳥毛帖成文書屏風、山水夾纈屏風、紫檀木画挾軒、白綾褥、彩絵挾軒脚、紫檀小架、平螺鈿背八角鏡、漆皮鏡箱、鉄漫背鏡、金銀絵鏡箱、花氈、棚厨子、棗把鞘四合刀子、斑犀把白牙撥鏤鞘刀子、斑犀把彩絵鞘金銀莊刀子、白葛箱、筆、漆皮箱、墨、銀針、銅針、鉄針、綠麻紙針裏、白色縷、黃色縷、赤色縷、造仏所作物帳・七夕詩習書、沙金桂心請文、東大寺封戸処分勅書、沢栗木箱、越中国射水郡須加開田地図、東大寺越中国諸郡庄園惣券第一、杉小櫃、大倭国正税帳、御野国戸籍・陸奥国戸口損益帳、遠江国浜名郡輸租帳、僧綱牒、写疏所符、緑綾帳、白綾几褥、紫地錦覆、黃地緑地夾纈羅衿裂、浅緑目交纈緞純衣服、赤紫黑紫羅間縫羅帶、噴面接腰残欠、錦襪、紫地亀甲殿堂文錦、八角天蓋残欠、唐草文鈴、子持鈴、梶子形鈴、瑠璃玉飾梶子形鈴、杏仁形鈴、瓜形鈴、蓮華形鈴、瑠璃玉付玉、露玉、斑犀如意、漆如意箱、密陀絵盆、金銅花形合子、金銅八曲長杯、蘇芳地金銀絵箱、白檀八角箱、緑地金銀絵長方几、彩絵長花形几、白綾褥、沈香木画双六局、赤漆八角床、彩絵二十八足几、成唯識論卷第四、增壹阿含經卷第九、金光明經卷第一



特別陳列「岡寺の歴史と美術」 東新館

◎天人文博(岡寺)、◎鳳凰文博(奈良・南法華寺)、軒丸瓦・軒平瓦、磚、瓦塔断片(以上岡寺)、◎諸寺縁起集(18帖のうち)(醍醐寺)、水鏡卷上(東京国立博物館)、龍蓋寺縁起(岡寺)、◎十巻抄卷第六(醍醐寺)、仏指、◎義淵僧正坐像、◎菩薩半跏思惟像、◎釈迦涅槃像、釈迦十六善神像、◎如意輪觀音像、不動明王像、愛染明王像、地藏菩薩二童子像、弁才天像、弁才天十五童子像、高野四所明神像、弘法大師像、琴棋書画図、両部大経感得図、扁額、金銅宝塔、岡寺境内絵図、厄年表、西国三十三所御詠歌版木、西国三十三所巡礼元祖十三人先達御影像版木、如意輪觀音・不動明王・愛染明王像版木、牛玉宝印版木、仏足跡版木、岡寺境内絵図版木、三重塔初層壁画(以上岡寺)

生誕800年記念 特別陳列「西大寺 興正菩薩収尊 1201-90 -民衆を救った生き仏-」 東新館

◎収尊書状、◎収尊書状(以上西大寺)、◎収尊書状(法華寺)、◎感身学正記、興正菩薩行実年譜(以上西大寺)《後半》、収尊遷化之記(極楽寺)、関東往還記前記(金沢文庫)、関東往還記(前田育徳会)、◎西大寺三宝料田畠目録、西大寺別当乘範書状、西大寺別当乘範置文案、梵網經古迹記輔行文集(以上西大寺)、般若寺文殊縁起等、◎収尊願文(以上般若寺)、◎法華寺舍利縁起(法華寺)、聖德太子講式、◎収尊像ならびに納入品、◎釈迦如来像納入品、◎愛染明王像ならびに納入品(後半)、愛染明王像(前半)、◎大黒天立像、収尊像(祖師忌用)、収尊像(受戒・夏安居用)、◎文殊菩薩騎獅像、釈迦三尊十六善神像、両界曼荼羅、◎釈迦三尊像(仁王会本尊)、◎壇塔ならびに宝珠・水精五輪塔、◎鉄宝塔ならびに五瓶・舍利容器(以上西大寺)、◎火焰宝珠型舍利容器(海龍王寺)、密教法具(伝収尊所持)、光明真言厨子(以上西大寺)、◎愛染明王像(西大寺)



特別出陳 本館

特別出陳 西新館 (～10/8, 11/28～)

◎薬師如来立像(唐招提寺金堂)

◎薬師三尊像(薬師寺講堂)

平常展「仏教美術の名品」 本館・西新館

本館 10/2～12/24

【彫刻】第1室 飛鳥～奈良時代の彫刻 ◎脱活乾漆木造梵天立像、◎乾漆木造伝救脱菩薩立像(以上秋篠寺)、乾漆天部形坐像、塑像侍者坐像(以上当館)、◎木心乾漆阿閦如来坐像(西大寺)、◎脱活乾漆目犍連立像、◎脱活乾漆舍利弗立像、◎脱活乾漆緊那羅立像(以上興福寺)、◎木造西大門勅額(東大寺)、◎木造十一面觀音立像(薬師寺)、◎銅造光背(二月堂光背)(東大寺)、◎銅造法華說相図(長谷寺)、◎銅造觀音菩薩立像(当館)、◎銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、銅造誕生釈迦仏立像、銅造誕生釈迦仏立像、銅造誕生釈迦仏立像、銅造誕生釈迦仏立像(以上個人) ～12/2◎銅造薬師如來坐像(当館)

第2・3室 平安・鎌倉時代の彫刻 ◎木造阿弥陀如來立像(裸形阿彌陀)(浄土寺)、◎木造增長天立像(当館)、◎木造広目天立像(興福寺)、◎木造多聞天立像(当館)、◎木造行賀上人坐像(法相六祖像のうち)(興福寺)、◎木造弥勒菩薩坐像(薬師寺)、◎木造十一面觀音立像(元興寺)、◎木造千手觀音立像(妙法院(蓮華王院))、◎木造薬師如來坐像(当館)、◎木造藥師如來坐像(元興寺)、木造如來坐像(当館)、◎木造吉祥天立像(法明寺)、◎木造十一面觀音立像(薬師寺)、◎木造聖觀音立像(觀心寺)、◎木造千手觀音立像(園城寺)、◎木造十一面觀音立像(勝林寺)、◎木造十一面觀音立像(地福寺)、◎木造觀音菩薩立像(セゾン現代美術館)、木造菩薩立像(当館)

第4～6室 ガンダーラ・中国・朝鮮半島の彫刻 〈ガンダーラ〉 石造如來立像、石造菩薩立像、ストゥッコ如來頭部、ストゥッコ如來坐像、ストゥッコ菩薩立像、ストゥッコアトラス像、石造貴婦人群像(以上個人)、石造仏伝図浮彫(当館)、〈中国〉 銅造仏三尊飾板、銅造誕生釈迦仏立像(以上個人)、銅造二仏並坐像(当館)、銅造菩薩坐像、銅造力士立像、◎木造諸尊仏龕(以上個人)、方形独尊坐像・壇仏、方形阿彌陀三尊壇仏、方形独尊壇仏、小型独尊壇仏(以上当館)、多宝塔壇仏、石造如來頭部(雲岡)、石造菩薩頭部(鞏県)、石造如來頭部(天龍山)、石造仏五尊碑像、石造仏立像、石造仏淨土碑群像、◎石造三尊仏龕(以上個人)、～12/2石造菩薩半跏像(個人)、◎脱活乾漆力士立像(当館) 12/4～◎石造三尊仏龕、◎石造十一面觀音立像(以上当館)〈朝鮮半島〉 銅造如來立像(光明寺)、銅造如來立像(当館)

第7～11室 日本彫刻の諸相 ◎木造觀音菩薩立像(本山寺)、◎木造十一面觀音立像(当館)、◎木造菩薩立像(個人)、◎木造弥勒仏坐像(東大寺)、銅造如來立像(当館)、◎銅造觀音菩薩立像(金剛寺)、◎銅造觀音菩薩立像(法隆寺)、◎銅造菩薩半跏像(東大寺)、銅造菩薩立像(興福院)、◎銅像葉師如來立像(般若寺)、銅造觀音菩薩立像(仏像型)(個人)、◎銅造觀音菩薩立像(觀心寺)、銅造菩薩立像(伝白山出土)(当館)、◎木造舞樂面・散手、◎木造舞樂面・貴徳(以上東大寺)、◎木造舞樂面・新鳥蘇(春日大社)、木造舞樂面・崑崙八仙、木造舞樂面・二の舞脛面(以上当館)、◎木造行道面(淨土寺)、木造阿彌陀如來坐像(金剛寺)、木造大日如來坐像(西城戸町)、◎木造增長天立像(称名寺)、◎木造增長天立像(法明寺)、木造阿彌陀如來坐像(兩脇侍像)(峰定寺)、木造阿彌陀如來坐像(個人)、木造弥勒菩薩立像(林小路町)、◎木造十二神將立像(辰・未)(室生寺)、木造愛染明王坐像(当館)、◎木造馬頭觀音立像(淨瑠璃寺)、◎銅造藏王權現立像(大峰山寺)、木造藏王權現立像(木造伊豆山權現立像(以上当館)、木造大將軍神坐像(大將軍八神社)、◎木造八幡三神坐像(薬師寺)、木造男女神像(当館) ～12/2木造舞樂面・崑崙八仙、木造十一面觀音立像、◎木造狛犬(以上当館)、銅造觀音菩薩立像、木造如意輪觀音坐像 12/4～木造舞樂面・納曾利、木造舞樂面・皇仁庭(以上春日大社)、◎木造地藏菩薩立像(長命寺)、木造大將軍神坐像(当館)

寺)、◎銅造菩薩半跏像(東大寺)、銅造菩薩立像(興福院)、◎銅像葉師如來立像(般若寺)、銅造觀音菩薩立像(仏像型)(個人)、◎銅造觀音菩薩立像(觀心寺)、銅造菩薩立像(伝白山出土)(当館)、◎木造舞樂面・散手、◎木造舞樂面・貴徳(以上東大寺)、◎木造舞樂面・新鳥蘇(春日大社)、木造舞樂面・崑崙八仙、木造舞樂面・二の舞脛面(以上当館)、◎木造行道面(淨土寺)、木造阿彌陀如來坐像(金剛寺)、木造大日如來坐像(西城戸町)、◎木造增長天立像(称名寺)、◎木造增長天立像(法明寺)、木造阿彌陀如來坐像(兩脇侍像)(峰定寺)、木造阿彌陀如來坐像(個人)、木造弥勒菩薩立像(林小路町)、◎木造十二神將立像(辰・未)(室生寺)、木造愛染明王坐像(当館)、◎木造馬頭觀音立像(淨瑠璃寺)、◎銅造藏王權現立像(大峰山寺)、木造藏王權現立像(木造伊豆山權現立像(以上当館)、木造大將軍神坐像(大將軍八神社)、◎木造八幡三神坐像(薬師寺)、木造男女神像(当館) ～12/2木造舞樂面・崑崙八仙、木造十一面觀音立像、◎木造狛犬(以上当館)、銅造觀音菩薩立像、木造如意輪觀音坐像 12/4～木造舞樂面・納曾利、木造舞樂面・皇仁庭(以上春日大社)、◎木造地藏菩薩立像(長命寺)、木造大將軍神坐像(当館)

第12・13室 ～12/2特集展示〈大仏殿様の四天王像〉 ◎木造四天王立像(海住山寺)、木造四天王立像(靈山寺)、特集展示〈地蔵菩薩とその周辺〉 ◎木造明星菩薩立像(弘仁寺)、◎木造龍猛菩薩立像(泰雲院)、木造地蔵菩薩立像(十市町自治会)、◎木造地蔵菩薩立像(大福寺)、木造地蔵・龍樹菩薩坐像(当館)、◎木造地蔵菩薩立像(東大寺)、◎木造地蔵菩薩立像(長命寺)、木造地蔵菩薩立像(万福寺)、◎木造地蔵菩薩立像(春覚寺)、木造地蔵菩薩立像(長谷寺)、木造地蔵菩薩坐像(正法寺)

12/4～特集展示〈善円と快成〉 木造十一面觀音立像、◎木造愛染明王坐像(以上当館)、◎木造釈迦如來坐像(東大寺)、◎木造地蔵菩薩立像(春覚寺)、〈動物たちの彫像〉 ◎埴輪牛(田原本町教委)、埴輪犬(個人)、◎木造狛犬、◎木造獅子、木造獅子頭(以上当館)、木造獅子頭(東大寺)、木造龍頭、木造舞樂面・崑崙八仙(以上当館)、木造舞樂面・陵王(氷室神社)、木造牛頭、銅造春日神鹿舍利厨子(以上当館)

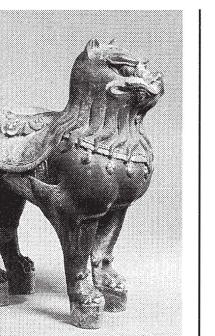
西新館 ～10/8、11/28～12/24

【絵画】11/28～◎釈迦三尊像(總持寺)、◎阿彌陀四十九化仏來迎図(光明寺)、◎十一面觀音像(太山寺)、◎五明王像(一乘寺)、愛染明王像(当館)、◎十二天像(聖衆來迎寺)、十六羅漢像(淨土寺)、◎法然上人繪伝(奥院)、◎遊行上人緣起(光明寺)、春日宮曼荼羅・仏涅槃図(個人)、春日宮曼荼羅(当館)、春日名号曼荼羅(当館)、鹿島立神影図(当館)、春日鹿曼荼羅(西城戸町)、春日社寺曼荼羅(当館)、南円堂曼荼羅(当館)、春日南円堂曼荼羅(長谷寺)、◎春日本迹曼荼羅(宝山寺)、春日地蔵曼荼羅(当館)、春日千体地蔵図(当館)、春日文殊曼荼羅(当館)、春日毘沙門天曼荼羅(当館)、春日赤童子像(植楓八幡神社)

【書跡】11/28～◎春日權現講式(高山寺)、◎地蔵講式(笠置寺)、◎弥勒講式(笠置寺)、觀音講式、諸菩薩求仏本業經(五月一日經)(以上当館)、自在王菩薩經(五月十一日經)(海龍王寺)、般若燈論釈(薬師寺)、◎闍磨(東大寺)、◎法華經(丹生津比売神社)、紺紙金字鬼問目連經(神護寺經)(当館)、◎法華經(長谷寺)

【工芸】11/28～◎蓮草唐草時絵絵箱(当館)、◎金銅透彫經筒(万徳寺)、百万塔(当館)、◎金銅透彫華籠(神照寺)、竹製華籠(性海寺)、金銅裝説相箱(個人)、◎黒漆戒体箱(万徳寺)、◎金銅透彫幡頭(中尊寺金色院)、◎金銅透彫華蔓・錦幡・散蓮華蝶文螺鈿卓・磬架・孔雀文磬(以上当館)、◎金銅密教法具(嚴島神社)、◎銅鏡(円福寺)、◎金銅獨鈿鈴、◎金銅三鈿鈴(以上個人)、金銅五鈿鈴(当館)、◎金銅宝珠鈴(個人)、金銅塔鈴、金銅獨鈿杵(以上当館)、金銅三鈿杵(個人)、金銅五鈿杵、金銅火舎・金銅華瓶(以上当館)、◎堆朱香合盆(聖衆來迎寺)、柄香炉(高山寺)、輪宝、羯磨、六器、火舎(以上当館)、金山寺香炉(長谷寺)、◎宝相華文如意、錫杖頭、錫杖頭、錫杖頭、錫杖頭、◎金銅鰐口、◎梵鐘、梵鐘(以上当館)

【考古】11/28～◎鳳凰文博(南法華寺)、方形三尊壇仏(橘寺出土)(当館)、方形三尊壇仏(川原寺裏山出土)(明日香村教育委員会)、方形三尊壇仏(南法華寺出土)(南法華寺)、塑像(滋賀・雪野寺出土)(個人)、蓮花文鬼瓦(奈良・奥山久米寺出土)(京都国立博物館)、鬼瓦(伝奈良・中山瓦窯出土)(当館)、◎鬼瓦(奈良・大安寺出土)(個人)、鬼瓦(奈良・秋篠寺出土)(個人)、石製九輪(奈良・山村廃寺出土)(円照寺)、◎粟原寺伏鉢(談山神社)、瓦塔(静岡・三ヶ日町出土)(当館)、◎東大寺金堂鎮壇具(東大寺)、靈安寺塔跡出土鎮壇具(当館)、◎山代忌寸真作墓誌(当館)、行基墓誌殘欠(当館)、◎青磁鉢(正暦寺)、金銅厨子形經筒(当館)、銅經筒(平治元年銘)(当館)、◎朝熊山經塚遺物(三重・経ヶ峯經塚出土)(金剛證寺)、粉河經塚出土陶製外筒(当館)、伝和歌山・白浜經塚出土品(当館)、伝愛媛県・北条市出土陶製經筒(当館)、◎藤原道長願經(奈良・金峯山經塚出土)(金峯神社)、紙本朱書法華經(伝大分県出土)(当館)、紙本墨書法華經(和歌山・粉河經塚出土)(当館)、◎紙本墨書法華經(紀伊王子神社・経塚出土)(比井王子神社)、◎銅板經(大分・長安寺・經塚出土)(長安寺)、瓦経(福岡・飯盛山・經塚出土)(当館)、青石経(愛媛・大日堂・經塚出土)(当館)、泥塔経(鳥取・智積寺・經塚出土)(当館)、◎線刻藏王權現鏡像(金峯山寺)、經塚出土鏡(個人・当館)、◎伝福岡県出土經筒・付如來立像(当館)、金銅幢形經筒(当館)、瑠璃鈿銅經筒(当館)



◎木造獅子(当館)



◎十二天像
(聖衆來迎寺)



行基墓誌残欠(当館)



展覧会の奥深さと素晴らしさ

—特別展「仏舍利と宝珠—釈迦を慕う心—」をみて—

宝仙学園短期大学学長 真鍋 俊照

この展覧会は、インドから中国・韓国・日本と三国伝来の仏舍利を中心とする「舍利莊嚴の美術」を一堂に集めた実に素晴らしい展示であった。私は初日と8月後半の2回、拝見する機会を得た。

たしか、7月9日の読売新聞の夕刊にカラー入りの展示案内が載っていたので、事前にはほぼ展示内容はつかめていたが、実際の会場に入ると、そのきらびやかさと莊嚴さには目を見張るものがあった。

展示そのものは、(1)寺院の象徴、(2)願いをかなえる舍利、(3)舍利信仰の広がり、の3部からなる。展示室の最初のほうに陳列された「ソーナリー第二塔出土舍利容器」(英國 ピクトリア・アンド・アルバート美術館蔵)は、19世紀中頃、インド考古局長のカニンガムが、苦心の末に本国イギリスへと持ちかえったものであるが、今回の展示品の中では、特に出色的のものである。また、初日に展示替一覧表をもらっていたので、二度訪れるこにしたが、その時には、珍しい「宝篋印塔雁嵌装舍利厨子」(福田寺蔵)など数多くの関係遺品を見るこもできた。展示内容はいずれも見ごたえのあるもので、また図録も見事な出来ばえであった。



松林寺五層塔納置舍利容器

私は会場で、韓国の有名な金色の舍利殿「松林寺五層塔納置舍利容器」(韓国 国立慶州博物館蔵)にじっと見入る老夫婦を見かけた。わずか14センチメートルの小さな神の家を見つめる二人の様子が、またなんと神々しい光景であったことか。仲むつまじいこの老夫婦の姿は、この展覧会だからこそ似合う風景なのかもしれない。老夫婦のうちの奥さんが、ご主人に向かって「お釈迦さんも最後はみんな家をつくってあげて、お慈悲の気持ちであたためようとしていたのかしらねえー」と言ったのが印象的であった。

この老夫婦をみていて、舍利は、釈迦を慕う心の融合というより、その前に釈迦の核心に迫りつつも「礼拝する」という仏教の根元的な行為の意味が、直接その造形に表現されているように思えた。釈迦への想いは、あるときには四角い箱のようなイメージ

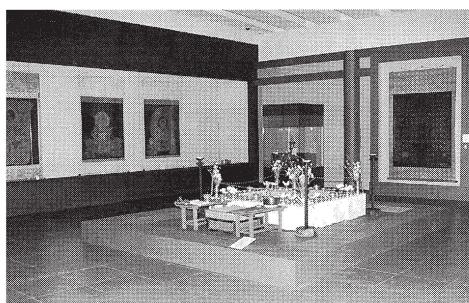
で覆ってみたり、またあるときには丸いもので何重にもつつんでみたりしながら、やつとの思いで、苦難をのりこえて、ようやくわが国にたどりついた。展示品の変遷を通して、釈迦の形骸(御骨)というものを、どれほど多くの人々が想い、慕ってきたかがわかり、その人々の心をいろいろなかたちに置き換えて表現しようとする、舍利のデザイン化・多様性に、私は興味をおぼえた。

この展覧会は、タイトルからみても、内容から考えても、なかなか理解しにくい難解なものと考えられがちだけれども、展示そのものは意外と釈迦を慕う心のすがたをズバリと言い当てているように思う。G・ユングが人間の深層心理なるフィルターを通して、心の中にマンダラを見出したのと同じように、人は美化された死後の証をわが身の近くにいつも持ちつづけたいと願うのだろう。

今回の特別展では、靈験あらたかな舍利信仰のあかしを時代の変遷とともに見ることにより、いかに釈迦牟尼に寄せる古代の人々の思いが強かったかが、改めて手にとるようにわかった。奥深さ・すばらしさを実感させる展覧会であった。



特別展のエントランス



特別展会場の陳列風景

◆公開講座

10月27日(土) 文書から見た正倉院宝物
11月3日(土) 年輪年代法と正倉院宝物

奈良大学教授 東野 治之

独立行政法人奈良文化財研究所埋蔵文化財センター発掘技術研究室長 光谷 拓実
11月4日(日) 山水夾縫屏風と奈良時代の絵画 美術室長 中島 博
11月10日(土) 正倉院古裂の由緒と近年の整理 宮内庁正倉院事務所保存課整理室長 尾形 充彦
12月9日(日) 解脱何日 一叡尊と文殊信仰一 長崎純心大学教授 平田 寛

いずれも13時30分より15時まで、講堂にて開催します。聴講は無料です。ただし定員は各回200名で、当日の先着順です。

◆ギャラリートーク

10月8日(月・祝) 岡寺の歴史と美術
10月10日(水) 平安初期彫刻の魅力
11月14日(水) 来迎の彫刻
12月5日(水) 興正菩薩叡尊 -心と形-

学芸課長 梶谷 亮治
企画室長 岩田 茂樹
美術室研究員 谷口 耕生
資料管理研究室長 西山 厚
美術室長 中島 博

原則として毎月第2水曜日に実施しますが、展覧会にあわせて追加開催します。いずれも14時より。陳列室にて。入館者の聴講自由。

◆「親と子の文化財教室」受講者募集

第6回 10月13日(土) 聖徳太子はどんな字を書いたのか

資料管理研究室長 西山 厚

第7回 11月24日(土) 飛鳥時代の工芸品

工芸室長 内藤 栄

第8回 1月12日(土) 人物・遺産で探る飛鳥時代の歴史

教育室長 宮田康和

小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。今年度は『飛鳥時代の歴史と美術』をテーマに勉強します。

○はがきに、「親と子の文化財教室参加申込」と記入の上、氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を望される月日(いくつでもかまいません)を必ず記入して、〔〒630-8213奈良市登大路町50 奈良国立博物館 教育室〕まで、お申し込みください。(FAX可)

○参加費は無料。定員は100名(先着順)。当館講堂において10時から12時まで行います。

◆ボランティアによる解説(ご案内)

○ボランティアによる解説を、開館日の10時～13時、13時30分～16時30分の時間帯に展示室で行っています。解説に要する時間は、入館者(個人・グループは問いません)のご希望に応じ、対応させていただきます。

○学校行事(修学旅行・校外学習等)や研修会等で入館される団体には、展示室での解説のほか、講堂や学習室でコンピュータ画像を使って「ぶつぞう入門」(約30分)・「奈良の九社寺と仏像」(約50分)をテーマにボランティアがわかりやすく解説します。20名以上の団体の場合は、事前にご相談のうえ、ご予約をお願いします。ご予約・お問い合わせは教育室 宮田(電話0742-22-7008 月～金曜日の9時～17時)まで。

開館時間 9時30分～17時(正倉院展期間中は9時～18時)

4月最後の金曜日から11月の第2金曜日までの金曜日は、19時まで開館。

(ただし、11月9日(金)は正倉院展(新館)が19時まで、平常展(本館)のみ17時まで)

※いずれも入館は閉館の30分前まで

休館日 月曜日(ただし、10月8日(月・祝)、12月24日(月・振休)は開館、11月9日(火)は閉館。正倉院展期間期間中は無休)、12月25日(火)～1月3日(水)

観覧料金 毎週土曜日は、小・中学生無料(正倉院展を除く)。

正倉院展		大人	高・大生	小・中生
	一般	1000円	700円	400円
前売・団体	900円	600円	300円	

特別陳列 ・ 平常展		大人	高・大生	小・中生
	一般	420円	130円	70円
団体	210円	70円	40円	

※団体は責任者が引率する20名以上。

※前売は10月26日(金)まで当館・近鉄主要駅・近鉄サービスネット営業所・チケットぴあ・ファミリーマートで販売します。

※正倉院展料金で平常展もあわせて観覧できます。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の企画室にお申し込み下さい。

〒630-8213 奈良市登大路町50 TEL0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレfonサービス0742-22-3331

ホームページ〈URL〉http://www.narahaku.go.jp/

奈良国立博物館